



鶴の便り

報資料館里鶴の
平成30年5月20日
第89号
発行 夕鶴の里

TEL 47-5800

民話語り部体験が 始まりました

大学生が体験型学習を通して山形県の魅力を知ってもらい、社会人として多面的な成長を育むことを目的とした「民話語り部体験」が始まりました。



今年度は山形大学の三年生十二名が五月と六月の週末四日間、様々な体験を行います。その中でも語り部体験講座は講師の先生に民話をご指導いただき、民話語りを覚える体験です。

受講者の学生は山形の方言について詳しく学びたい人や南陽市の民話に興味のある人など様々でした。

練習の成果は実際に山形市内の学童保育で口演するため皆さん真剣に取り組まれています。



花いっぱい運動

今年も花いっぱい運動が始まりプランターに花植えを行いました。マリーゴールド、サルビア、ペチュニア、ベゴニアの可愛い花が皆さんをお出迎えしています。



第九回

「おきたま語り

フェスティバル」

◆日時 六月十七日(日)

午後一時～

(午後三時終了予定)

◇大人の語り

◇子どもの語り

◇寸劇

◆会場 夕鶴の里

語り部ホール

◆入場料:無料

◆主催 おきたま語り部の会

◆お問い合わせ

夕鶴の里

TEL 四七・五八〇〇

(おきたま語り部の会事務局)

※当日は、駐車場の混雑が予想されますので、無断駐車はご遠慮下さい。



お蚕様が

やってくる



今年も六月上旬からお蚕様を飼育します。

置賜地方で養蚕が盛んに行われるようになったきっかけは米沢藩第九代藩主上杉治憲(鷹山)が困窮していた藩の財政危機を打開するための産業政策でした。

享和二(一八〇二)年には

よつさんてびき

『養蚕手引』というこの地域の気候風土にあった蚕の飼育方法を作成して領内に配布するなど、藩を挙げて養蚕業に力を入れていたことがわかります。

昔は現代のように科学的知識や技術が発達していなかったため、蚕病や桑の葉の収穫不足により不作になることがありました。そこで、今年も無事に飼育出来るように「オシラ神」や「オシヤ神サマ」という名前の養蚕の神様をお祀りし信仰するなど養蚕はこの地方と深い結びつきがあります。当館でもお蚕様を飼育しますので、ご来館の際は是非ご覧頂ければと思います。

オシラ神は

どんな神様？

オシラ神はどのような神様だったのか興味を持つ学者は百年以上前から沢山いて様々な説を唱えています。今回はその中でも2人の説をご紹介します。

やなぎたぐにお
柳田国男

民俗学者の柳田国男は著書でオシラ神は養蚕の神であると書いています。また

「オシラとは蚕のことと言われており、男女一对の桑の木

偶像で、馬頭のもの、烏帽子を被ったものがある。いたこ(巫)が祭る」と説明し、さらに「オシラサマは決して神として祀られているだけではない、眼の神としても女の病を祈る神としてもまた子供の神としても信仰せられている」とも書いています。

みなかたぐまくす
南方熊楠

博物学者であり、生物学者、民俗学者の顔も持つ南方熊楠はオシラ神が恋の神様である説を唱えました。

「オシラ様双体は、最初支那(中国)伝来の養蚕の神にて、養蚕はもとより婦女の本業なれば、もつばら女人拝みしが、転じて恋の神のごとくなり」
蚕の糸を紡ぐのはもつばら女性の仕事であったため、女性から蚕の神として信仰されていたオシラ神がいつしか恋愛の神としても信仰されるようになった。ということのようです。

どちらの説でもオシラ神は養蚕だけでなく人々の生活に密着した神様のようです。

〈参考文献〉

蚕・絹糸を吐く虫と日本人、ものと人間の文化史 絹口

お願い

貸館について

- ◇使用の際は事前に夕鶴の里へ使用申請書を提出してください
- ◇電気・冷暖房は必ず消して下さい。トイレの便座の暖房も止めてください。
- ◇各調理台の洗い場のふたは、閉めないようにしてください。
- ◇使用時に出たゴミは、各自持ち帰って下さい。
- ◇使用後は必ず日誌に記入してください。
- ◇使用後の施設は間違わないように行ってください。
- ◇和室のテーブルは綺麗に拭いてから片付けて下さい。

無断駐車はご遠慮下さい

○当館ではこれからイベントが多くなり駐車場の混雑が予想されます。他の来館者の妨げにならないよう無断での駐車はご遠慮ください。
やむを得ず駐車する場合は当館へ電話等で必ずご連絡頂くようお願い致します。